

子どもたちの学びを止めない！～すべての子どもに学びを保障する～

新型コロナウイルス感染症の感染者数が100人を超える日が出るなど、予断を許さない状況が続いています。学校においても、臨時休校や出席停止が相次いでいます。そのような中、学校では子どもの健康と安全を守るために最善の感染症防止対策を講じ、学習や学校行事を進めていただいています。今回は、ICT 端末持ち帰りの取組、オンライン授業の例を紹介しします。

ICT 端末持ち帰りの取組

岩美町では、現在の新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ、岩美町内4小中学校が共通理解を図りながら、ICT 端末持ち帰りの取組を進めています。定期的にICT 端末を持ち帰って自宅で活用する経験を積み上げることで、ICT 端末の操作に慣れ、自分で考え学習に活用していく力の育成を図っています。その際、保護者文書で持ち帰りの日程やきまりを伝え、理解や協力を得ながら進めています。

日時	内容
2月 2日(水)	タブレットドリル、すらら等～行う内容は各担任が児童に知らせます。
2月 9日(水)	タブレットドリル、すらら等～行う内容は各担任が児童に知らせます。
2月16日(水)	第2回目リモート授業体験(第1回目の1月19日のように行います)
2月24日(木)	タブレットドリル、すらら等～行う内容は各担任が児童に知らせます。
2月28日(月)	この週は、毎日タブレットを持ち帰り、次の日に学校に持ってきます。
～	次の日の連絡をカメラで写し、ご家庭で確認できるような連絡帳として、タブレットを活用します。
3月 3日(木)	

※タブレットには、接続休止時間(午後9時～翌朝8時)を設定していますので、ご注意ください。

※タブレットの目的外使用(アプリのダウンロード、動画再生、メールの使用等)は、固く禁じています。

【岩美西小学校「今後のタブレット持ち帰り日程について」抜粋 令和4年1月】

岩美町では、定期的に「情報教育推進連絡会」を開催し、岩美町内4小中学校が共通理解を図りながら、ICT 活用教育を推進しています。この連絡会には、岩美町教育委員会、校長代表、共同学校事務室の室長、ICT 支援員も参加し、各校でのICT 活用の様子、持ち帰り、児童生徒の情報活用能力の育成等について情報交換や協議を行っています。町内4小中学校で協議し、取組を進めることで成果が上がっています。



「ハイブリッド型授業」と「オンデマンド型授業」

現在のコロナ禍において、学校は授業しているけれども新型コロナウイルス感染症に係る出席停止でやむを得ず自宅で過ごす児童生徒が増えています。そのような中、児童生徒や家庭、学習内容に配慮しながら、ハイブリッド型やオンデマンド型での学習の試みが、東部地区でも行われています。

ハイブリッド型授業

学校での通常授業と自宅でのオンライン授業を同時に行う授業形態です。

双方向でのやり取りが可能で発言もできますが、濃厚接触者等で欠席している児童生徒への配慮や学級指導等が重要になります。

オンデマンド型授業

実際の授業を動画撮影したものを、児童生徒に配信して行う授業形態です。

一方向での授業ですが、都合のよいときに視聴でき、教室での学習の様子が確認できます。ドリル等を併用することで学習補充もできます。

大分県では、ハイブリッド授業に先駆的に取り組み、基本的な考え方や授業展開例を示しています。また、実際にオンラインで授業に参加した児童生徒の困り感から、教師の指導上の留意点をまとめています。詳しくは、大分県教育センターホームページをご覧ください。(こちらのQRコードからもご覧いただけます。)



児童生徒の困り (オンライン参加)	指導上の留意点 (教室にいる先生)
<ul style="list-style-type: none"> ◆先生や友だちの声が聞こえにくい ◆ときどき、音声が途切れるんだよ ◆黒板の文字が見えにくいなあ ◆黒板や資料の一部が映ってない ◆説明している先生の顔が見えない ◆教室の友だちが、立ったり座ったりするときのイスの音がやけに大きく聞こえる ◆端末の画面から家の様子(背景や音)がわかっていやだなあ ◆一回も発言しなかったなあ ◆教室のみんなは楽しそうに話し合っていたけど・・・ 	<ul style="list-style-type: none"> ◇「操作の手引き」等をあらかじめ配布しておく ◇音声がかたくなったり、映像が見えにくかったりしたときは、「ミュート」を解除して呼びかけたり、「反応ボタン」を押したりして先生に知らせるように指示する ◇黒板を映す端末(カメラ)の位置を決め固定する ◇カメラに映す黒板の範囲を決めマーキングしておく ◇全員に向けて説明や指示をする場合は、カメラに映る教師の立ち位置を決め、その場所からできるだけ動かさずに行う ◇教師用の端末にイヤホンマイクのジャックを挿しておく(オンラインで参加している子どもには先生の声だけが聞こえる) ◇画面の背景を変える操作させ(仮想背景利用) ◇教室の子どもと同様に、オンライン参加の子どもも指名して発表を促す ◇教室で机間指導するときに、オンライン参加の子どもにも必ず声をかけ、必要に応じて指導する ◇教室の子どもにも端末をもたせ、オンライン参加の子どもと話し合いができるようにする ◇教師の端末がパソコンの場合は、ブレイクアウトセッション等を積極的に活用する

【大分県教育センター 緊急時の在宅学習を支援する「オンライン授業」 令和3年9月】